



**「SUMMITSII」の導入により、健診業務
が自動化され、複数人必要だった作業を
一人で対応できるなど、業務の効率化、
スムーズな健診が実現できています。**

一般財団法人 霞ヶ浦成人病研究事業団
健診センター

一般財団法人霞ヶ浦成人病研究事業団健診センター

- 所在地 : 茨城県稲敷郡阿見町中央3-20-1
- 設立 : 1976年11月1日
- 代表者 : 理事長 室田敬一
- 従業員数 : 67名(2023年6月現在)
- 事業内容 : 健康診断事業、生活習慣病の予防・診断などに関わる
調査・研究、施設基準薬局

一般財団法人霞ヶ浦成人病研究事業団健診センターでは20年以上前から株式会社サン・プランニング・システムズの健診システムを活用してきました。そして2016年4月の更改にあたり、「SUMMITSII」を導入しました。サン・プランニング・システムズを知ったきっかけ、「SUMMITSII」導入の詳しい経緯と導入効果について、霞ヶ浦成人病研究事業団健診センター、情報システム課 課長 野口 雅敏様、企画・営業課 課長 谷村 禎久様、健診課 課長 診療放射線技師 名越 武徳様に詳しく伺いました。

健診後のサポート体制にも注力

●一般財団法人霞ヶ浦成人病研究事業団健診センターについて教えてください。

霞ヶ浦成人病研究事業団は、東京医科大学及び東京医科大学茨城医療センターと協力して、生活習慣病に関する予防・早期発見・早期治療をはかるため、地域住民や企業従業員の健康と福祉に寄与貢献する目的をもって、1976年11月1日に設立されました。健診センターと霞ヶ浦薬剤センター薬局を持ち、地域住民の健康と福祉の増進に寄与し、健康で活力ある明るい地域社会の実現、地域の発展に貢献することを理念として歩んできました。

設立以来、施設環境や機器などを順次更改し、最新の設備で健診ができるように努めています。また、外部評価機関の日本人間ドック学会から「健診施設機能評価認定」を、日本総合健診医学会からは「優良総合健診施設」に認定され、健診の質の向上にも努めています。

現在では1日約80名、年間では約1万8000名の皆様にご利用いただいています。

健診センターでは、健診後のサポート体制に注力しており、隣接する東京医科大学茨城医療センター受診をご希望の場合、紹介状作成とともに専門外来の予約をお取りするサービスも行っています。※予約が取れない診療科もあります。

さらに再検査・精密検査ご希望の連絡がない場合、受診日から2ヵ月後・6ヵ月後を目安に受診対象者へご連絡をして、状況の確認をさせていただいています。

20年以上前からSPSの健診システムを活用

●健診センターでは、株式会社サン・プランニング・システムズ (SPS) の総合健診システム「SUMMITS II」を、2016年4月に導入し活用されています。導入された経緯について教えてください。

当センターでは30年以上前から健診システムを使用していました。当時、他のシステムベンダーで課題となっていたのは、帳票を少し修正するだけで何十万円という請求が上がってくることでした。軽微な修正でも毎回その請求がありましたので、上席から次にシステムを更改するときには、帳票を社内でカスタマイズできるシステムを選定するようにいわれていました。

実際の更改の時期には日本人間ドック学会の展示会に参加して、自社で帳票のカスタマイズ、帳票の修正ができるというシステムを持つ複数のベンダーのブースを訪れ、デモンストレーションを見せてもらったり説明を聞いたりしました。その中にSPSのブースもあり、その後3社を比較検討しました。

その中でフレキシビリティ帳票というレイアウトを調整できる機能と、表示するデータを変更できる機能を持っていたSPSの健診システムを導入しました。

SPSとはその頃からのつきあいで、20年以上支援いただいています。

●現在活用している「SUMMITS II」はSPSの健診システムとしては3代目とお聞きしています。システム更改の際には改めて比較検討はされたのですか。

もちろん複数社を比較検討しました。初代から2代目への更改については割愛しますが、3代目から「SUMMITS II」への更改に際しては3社を比較検討しました。

まず600項目に上る要件定義書を作成して、各社に検討の上、提案をお願いしました。600項目の要件定義書の内容としては、予約から契約、検査の進捗、結果入力、結果報告、請求、未収金管理までを網羅したものです。

3社の提案を比較検討した結果、SPSの「SUMMITS II」を導入することになりました。

600項目の要件定義のほとんどが「SUMMITS II」のパッケージに含まれている

●「SUMMITS II」の導入を決めた理由を教えてください。

「SUMMITS II」導入の決め手は下記の通りです。

1. 600項目の要件定義書の内容のほとんどがパッケージに含まれていた。
2. パッケージ以外のカスタマイズ開発が必要な部分が限定的で費用が抑えられる。

3社ともに要件定義書には対応できるというお返事でしたが、その内容が大きく違っていました。他の2社は「契約を結んで稼働してから要件を確認しましょう」というものでした。内容を精査すると、パッケージに含まれていない機能が多く、契約後にシステムのカスタマイズ開発が必要になり、かなりの追加開発費用が発生することがわかりました。



情報システム課 課長
野口 雅敏様



情報システム課 係長
大久保 敏博様

SPSの「SUMMITS II」については、外部ユーザー向け帳票の作成やエクスポート、つまり各健康保険組合へのデータ提供に関する部分はカスタマイズ開発が必要でしたが、他の2社と比較して導入後に発生する費用がかなり少なくて済むことがわかりました。

●以前からSPSの健診システムをお使いでしたが、「SUMMITS II」の導入はスムーズに進みましたか。

現在はスムーズに稼働していますが、導入当初はいろいろと調整が必要でした。一番困ったのは、結果報告通知書です。自動診断をかけても想定した内容通りに出力できないことがあり、看護師や保健師なども含め何人かでシステム外の作業で訂正を行いました。その他にも調整が必要な部分があり、毎日のように電話などでSPSにサポートを仰ぎ、一つひとつ解決してきました。

導入前には数多くのデータパターンでテストを行いました。その一方で、皆さん健診を受けられるのは基本的に年1回です。中には2年に1回という健診パターンもありますので、いろいろなパターンを網羅するまでに、おおむね1年間、中には2年間かかったものもありました。

●導入当初は解決しなければならないことがいろいろとあったのですね。

そうですね。ただ健診の受診にはまったく影響なく進めることができましたし、健診データの「SUMMITS II」への取り込みもスムーズに行えていました。健診を受診される方に影響がなかった点は、とても助かりました。

その理由について後からSPSに聞きました。「SUMMITS II」はパッケージソフトであり、これまで様々な健診の現場で利用されてきた経緯があるため、健診の受診に際して滞りなく対応できたようです。

これがスクラッチ開発であったり、パッケージソフトでもカスタマイズ開発の度合いが多かったりすると、データの取り込みができない事態になっていた可能性もあるそうです。



企画・営業課 課長
谷村 禎久様



健診課 課長診療放射線技師
名越 武徳様

そうした点でも必要な機能が揃っているパッケージソフトである「SUMMITS II」を導入して良かったと思います。

請求・支払に関連する業務の自動化ができた

●「SUMMITS II」の導入効果について教えてください。

1. 健診料金の計算が自動化できた

以前の健診システムでは、健診の前日に、翌日の健診予定者を見ながら、受診者の窓口負担金と健保への請求金額をシステム外の作業で確認する必要がありました。1日約80名が受診し、それぞれ異なる健保に入られている方が受診しますので、とても煩雑な作業でした。

今では契約時に料金の設定をきちんと行うことで、窓口料金、健保への請求金額が自動で計算されますので、前日の確認作業はなくなり、担当者の負担も軽減されました。

2. 入金の消し込み作業も自動で行える

入金に伴う消し込み作業は、現在は銀行からEBサービスで入金データをもらい、「SUMMITS II」に登録することで、自動で消し込み作業を行っています。そこでの名前の不一致や未収金に関しても引き続き「SUMMITS II」で管理できます。

以前は未収金に関しては別の会計ソフトを使って管理していましたので、複数のソフトで確認しないと、未収金の処理は行えませんでした。今では「SUMMITS II」だけで管理できますので、担当者の負担も軽減されています。

3. 結果報告書の宛先出力の自動化

以前は結果報告書の宛先をシステム外の作業で確認してから印刷する必要がありました。

「SUMMITS II」では納品仕様という機能に事前に設定することで、一人ひとりの宛先を確認することなく、自動で宛先が割り当てられて印刷することができます。結果報告書の発送作業がずいぶんと効率化されました。

4. 属人化をなくしていく一助に

当センターは豊富な人員を抱えて運営しているわけではなく、適正な人員での運営を心がけています。以前は、健診料金の確認や未収金の消し込みなどに複数人が対応していましたが、「SUMMITS II」では効率化され、一人に対応できるようになりました。そこで手が空いた人員には今まで携わっていない業務を習得してもらう余裕ができました。以前は時間や慣れの関係で属人化してしまいがちだった業務も、「SUMMITS II」による効率化で複数の人に業務を担当してもらえるようになり、属人化を防ぐ一助となっています。

5. 健診予約の枠管理の正確さが増し、正しい情報提供ができる

各健康保険組合に健診を営業する営業担当は、健保ごとに健診の枠（日付・人数）を提示して、健診の予約を確定していく業務があります。以前は1ヵ月単位でA3の用紙に出力した健診の予約表を見て、健保サイドに予約枠を伝えていました。ただシステム外の管理だったため、枠の押さえ忘れや見間違い

などで、実際には予約できる日程をお断りしたり、逆に定員をオーバーしてしまうこともありました。現在では「SUMMITS II」の予約画面で確認しながら、健保サイドに提示したり、予約を受けたりすることができるようになりました。予約のミスもなくなり、業務もスムーズに進められるようになったため、健保サイドもセンターサイドも効率化のメリットを感じています。

6.健診中の受診者の管理がしやすくなった

実際に健診を行う健診課では、「SUMMITS II」の進捗画面を常に見ながら、受診者をお待たせすることのないように健診を進めています。受診者の待ち時間が20分を超えたら黄色、30分を超えたら赤というように、待ち時間を色でもわかるように設定してあるので、お待たせすることなく受診いただいています。

この機能は前システムからあった機能で、健診課では「SUMMITS II」を選定する際に必須機能の一番目に掲げていました。

今後もSPSとのいい関係を 続けていきたい

●「SUMMITS II」に対する評価を 教えていただけますか。

非常に高く評価しています。当センターの業務の効率化にも繋がっていますし、それが健保からの信頼となって、毎年受診いただいていると思います。もちろん導入当初の1年から2年はスムーズにいかないこともあり、たいへんな思いもしましたが、それを乗り越えて、こうしてお話をさせていただけるのもSPSのサポートがあったからです。営業担当、システム担当、サポート担当の皆さんといい関係を築けているので、高い評価ができるのだと思います。今後もシステムだけでなく、SPSの各担当者とも良い関係を継続していきたいですね。

●「SUMMITS II」の今後の活用予定や、SPSそして「SUMMITS II」へのリクエスト、期待などがありましたら教えてください。

「SUMMITS II」はWEB予約システム、WEB問診システムにも対応していますので、今後は導入を検討していきたいと考えています。受診される方の中には高齢者も多く、WEBでできるのかという心配もありますが、SPSから導入事例や提案などをいただけるといいですね。

サポートに関しては、導入当時の毎日の問い合わせに対して、きちんと対応していただき、トラブルへの対処ができたことは感謝しています。ただ、時折サポート担当からの返信が遅れたりすることもあります。多くのクライアントに相対していることは承知していますが、今すぐ解決したい内容もありますので、よりスムーズな対応をお願いしたいと思います。

こちらからのリクエストの内容によっては、システムのアップデートで対応してくれたこともあります。当センターはもちろんですが「SUMMITS II」の全ユーザーにメリットがあるので、ぜひ続けていただきたいと思います。

そして他の健診施設の事例や新たな使い方、より効率化が図れる活用方法など、今後ともご提案やサポートに大いに期待しています。

お忙しい中、貴重なお話を聞かせていただき
ありがとうございました。

取材日時 2023年6月
一般財団法人 霞ヶ浦成人病研究事業団健診センター
<http://www.ksk-jigyoudan.or.jp/kensin/index.html>

※記載の所属、役職名等は、
2023年6月時点のものを記載しています。



(左から)株式会社サン・プランニング・システムズ 大舘 建吾、須田山 誠、来島 礼直、小山 淳